

持続可能な社会の実現のために地域に根差した継続的な活動を支援 第19回「TOTO水環境基金」助成先団体を決定 ～国内4団体、海外7団体に計2,760万円を助成～

TOTO株式会社(本社:福岡県北九州市、社長:清田 徳明)は、このたび第19回「TOTO水環境基金」の助成先団体を決定しました。

選考の結果、国内4団体、海外7団体の計11団体に計2,760万円を助成します。これにより2024年度は、既に活動中の7団体とあわせて、合計18団体のプロジェクトへの支援となります。今回の助成により、2005年の設立以来、のべ316団体に対して4億7,149万円の助成を行うことになり、活動地域は国内42都道府県、海外17カ国に及びます。

今年度、国内では希少生物が生息する沼の整備・生態調査活動に参加した方々より「自然環境を守っていくことの大切さと難しさを、身をもって感じる事ができた」「人間と自然の関わりについて考える事ができた。」といった感想が寄せられています。また、海外からは水源となる泉の整備により「遠くの井戸に頼ることなく、近くで安全な水が汲めるようになってとてもうれしい」など、喜びの声が寄せられました。

TOTOは創立以来「水」に関わる事業を展開してきた企業として、2030年に「持続可能な社会」と「きれいで快適・健康な暮らし」の実現を目指す、新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030のもと、地域社会の発展と地球環境の保護に貢献する活動を積極的に推進することで、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に貢献し、今後も世界で必要とされ続ける会社を目指します。



沼の環境整備作業の様子(北海道)



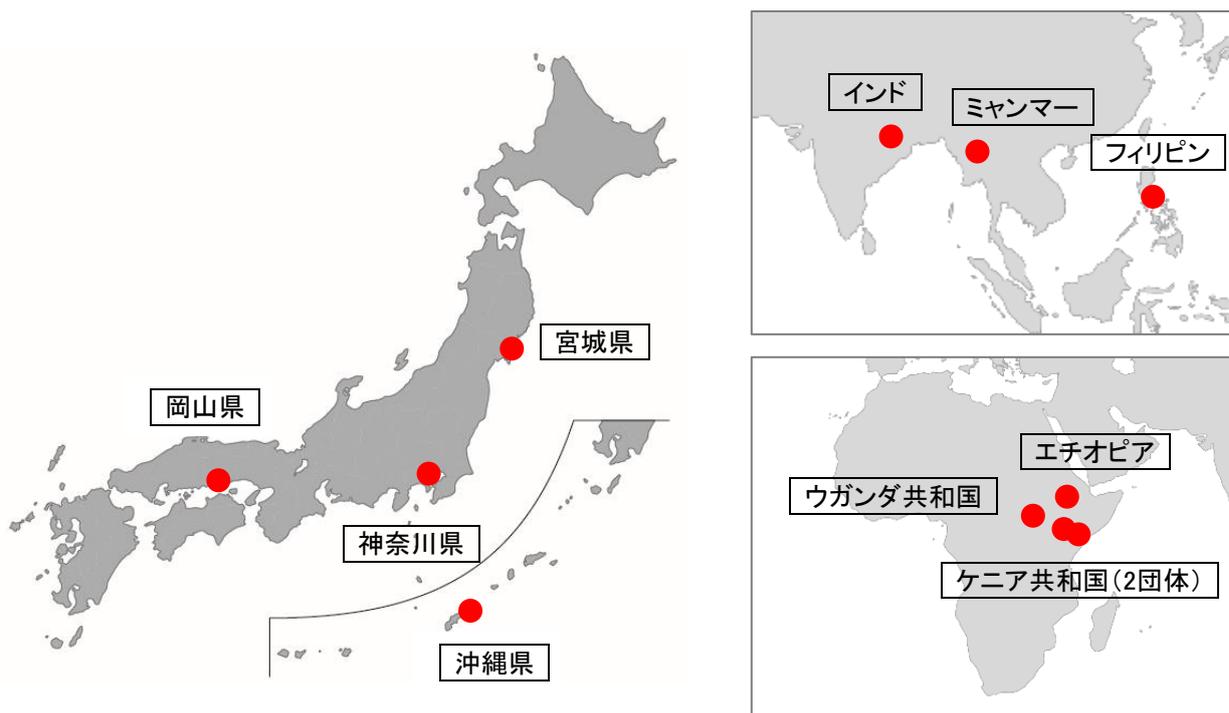
泉を保護・整備する様子(ウガンダ共和国)

「TOTO水環境基金」について

TOTOグループは、持続可能な社会の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせないと考え、2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に取り組む団体への助成を続けています。

「地域に根ざした活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」を中心に選考を行い、想いを同じくする団体とプロジェクトを実施しています。当基金は助成によって活動を後押しするだけでなく、最寄りの事業所のグループ社員が中心となって積極的にボランティア活動に参加する「協働」にも力を入れています。

第19回「TOTO水環境基金」助成プロジェクトの活動地



第19回「TOTO水環境基金」助成先団体一覧

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2024年度	2025年度	2026年度
1	団体名： 小泉ユニバーサルビーチユニット プロジェクト名： 水環境を整え自然を保全していくまちづくり -海・山・川・ビオトープがある町-	宮城県	2020年、東日本大震災から9年ぶりに小泉海岸海水浴場がオープンしたが、住民の津波体験による海離れおよび震災後に建設された県内最大高の防潮堤が障壁となって訪れる一般者がいなくなったことを受け、地元有志が発起人となり、安全な海岸づくりと賑わい創出を目的として2021年に団体を設立した。 本プロジェクトでは、これまでに取り組んできた行政・他団体も巻き込んだ市民参加型の「各場所のゴミ拾い活動」「景観を取り戻す活動」「ゴミの調査」「探鳥会」への参加者増を図り、環境保護活動を柱にした住民同士のつながり・地域の活性化を発展させていく。	○	○	-

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2024年度	2025年度	2026年度
2	<p>団体名： 海×TECHプロジェクト実行委員会</p> <p>プロジェクト名： テクノロジーを用いて海の変化を深く理解し、海の恵を味わうことができる、次世代の環境学習イベント開催</p>	神奈川県	<p>地域の熟練漁業者と若手エンジニアが協力し、人と自然が調和する、豊かな海の世界づくりを目指して2023年に設立。小学生を対象とした体験型環境学習イベントを開催する。</p> <p>本プロジェクトでは、海中ロボットやAI技術を活用した環境問題へのアプローチと養殖現場の見学や地域の海の幸を味わうこと等により、豊かな海を守っていききたいという想いが育まれる機会をつくる。</p>	○	—	—
3	<p>団体名： 公益財団法人 水島地域環境再生財団</p> <p>プロジェクト名： 瀬戸内海の守り人 "海ボウズ" 育成プロジェクト</p>	岡山県	<p>岡山県倉敷市水島地域では、戦後に建設されたコンビナートによる公害問題が発生し、大気汚染公害裁判がおこなわれた。和解協議において「地域の生活環境の改善のために解決金を使用すること」が合意されたことにより、その一部を基金として財団を設立。</p> <p>本プロジェクトでは、国内有数の用水路王国である倉敷市において、これまで取り組んできた市民の力による用水路およびその周辺でのごみ拾い活動の継続、地域社会に向けた成果等の発信強化により、人々の意識を変え、地域ぐるみで瀬戸内海に流入するごみの減量化を進めていく。</p>	○	○	—
4	<p>団体名： 特定非営利活動法人 オン・ザ・ロード</p> <p>プロジェクト名： 沖縄でのビーチクリーンとアップサイクル体験による5R普及活動</p>	沖縄県	<p>日本の逆境にいる子どもたちや、世界中の難民キャンプ・貧困地域等で暮らす子どもたちに教育提供・職業支援などを行うことを目指して2008年に設立。2022年からは、日本国内においてビーチクリーン活動で海洋ゴミを回収し、アップサイクルするプロジェクト「TRUE BLUE」を開始。</p> <p>本プロジェクトは「TRUE BLUE」活動で、沖縄において海洋プラゴミを回収し、オリジナルのアップサイクル商品を製作し、資源循環サイクルを生み出す。この過程を観光客・地域住民に気軽に体験してもらいイベントを実施することで、環境に配慮し、5Rを意識した行動につなげる。</p>	○	○	○

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2024年度	2025年度	2026年度
5	団体名： 公益社団法人 アジア協会アジア友の会 プロジェクト名： 住民主体のごみ管理 クリーンでグリーンな地域・学校 ―水環境のために	フィリピン	1979年に活動をスタートした、アジアに“生命の水”を贈る国際協力NGO団体。地域ごとの実情に根ざした活動で人々の自立を目指している。 本プロジェクトでは、ごみ処理システムの整わないフィリピンの農村において実施してきた、分別とリサイクル・堆肥化促進による「不衛生な生活環境や水環境の改善」、「子ども・親たちの環境意識向上」、有機肥料で安全な野菜を栽培することによる「栄養改善・家計支援」の事業活動をさらに広範な地域へ展開し、定着させることを目指して推進していく。	○	—	—
6	団体名： 公益財団法人 オイスカ プロジェクト名： ミャンマー中央乾燥地域における 水環境の改善と環境教育	ミャンマー	「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1969年に設立。主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開している。 本プロジェクトでは、厳しい気候条件の中、水源もなく慢性的な水不足となっているミャンマー中央乾燥地域にある事業地において、雨水貯蔵システムを設置すると共に、不足しているトイレの建設および栄養源となる樹種の植林活動等によって生活環境の改善、支援を行う。	○	—	—
7	団体名： 特定非営利活動法人 ウォーターエイドジャパン プロジェクト名： インド ビハール州 保健センター の水・衛生改善プロジェクト	インド	「2030年までにすべての人がすべての場所で清潔な水とトイレを利用し、衛生習慣を實踐できること」をビジョンとし、2013年に日本法人を設立。途上国での水・衛生プロジェクトの実施、国内外での政策提言、学校との連携による開発教育・各種イベントを通じた関心喚起に取り組む。 本プロジェクトでは、モデルケースとして農村部の母子保健センター・保健医療施設で安全な水とトイレ設備を利用できるようにし、手洗い等の衛生習慣を普及させる。また、排水管理システムを設置し、地域の衛生環境の改善と地下水の増加を図る。	○	—	—

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2024年度	2025年度	2026年度
8	団体名： 特定非営利活動法人 STAND ALIVE プロジェクト名： 水と衛生環境の保全のための環境衛生式トイレ普及事業	ケニア	ケニアでの女性や子供の死亡率の改善を図るための活動がきっかけで2022年に生まれた団体。女性や子供が生まれた国や地域に関係なく、平等に生き、公平に社会のスタートラインに立てるような社会の実現を目標に、途上国などでの活動を行っている。 本プロジェクトでは、野外排泄により土壌・水源汚染が深刻な問題となっている農村地において、高床式・し尿を無害化するトイレ「エコサントイレ」の普及を促進し、使用・管理方法や衛生知識の啓発を行うことにより、環境改善の維持を目指す。	○	—	—
9	団体名： Team NAKUSCO （長崎ケニア住血吸虫症制圧大作戦） プロジェクト名： NAKUSCO Kichocho Project ～みんなでつくる、水とトイレと村の未来～	ケニア	日本で住血吸虫症の研究をする研究者有志により2023年に設立。住血吸虫症に苦しむ地域での感染症制圧を目指して活動している。 本プロジェクトでは、感染症専門家たちが、寄生虫感染症の治療や研究を行っている事業地で、病気の原因となっている不衛生な環境の改善および公衆衛生教育を行うことにより、感染リスクを抑え、有病率を低下させる相乗効果を図る。	○	—	—
10	団体名： 特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構 プロジェクト名： 私たちが広める！「トイレの利用と手洗い」	エチオピア	2001年に起きたインド大地震の国際災害緊急支援をきっかけに設立。開発途上国の人々を支援する国際協力団体として、コミュニティ開発支援事業などの国際開発事業、大災害緊急支援事業を展開している。 本プロジェクトでは、3年間にわたって学校トイレを建設してきたオイダ地区の最後の1郡にある小学校トイレを建設し、併せてトイレの利用と手洗いの啓発研修を実施する。さらに学校内にとどまらず、研修を受けた児童により、コミュニティ全体に対して衛生活動の重要性を呼び掛けるためのキャンペーンを実施する。	○	—	—

	団体名・プロジェクト名	活動地域	活動内容	助成期間		
				2024年度	2025年度	2026年度
11	団体名： 認定特定非営利活動法人 難民を助ける会(AAR Japan) プロジェクト名： ウガンダにおける学校の衛生環境 整備支援	ウガンダ	1979年にインドシナ難民支援を目的に日本で発足。紛争・自然災害・貧困などにより困難な状況に置かれている人々に必要な支援を届け、明日の社会が今日よりも豊かで希望の持てるものになるよう活動している。 本プロジェクトでは、難民居住地にある学校・女子寮に、井戸やトイレ、水浴び場や生理用品焼却炉を建設・整備し、併せて職員・生徒たちへの衛生教育を行う。不衛生な環境であったがゆえに学校に行けず、体調を悪くしていた女性生徒たちが、安心して学べる環境を提供する。	○	—	—

2024年度に助成する団体の内、すでに活動中の7団体(国内)

	団体名・プロジェクト名	プロジェクト名	活動地域	助成開始時期
1	特定非営利活動法人さざなみ	習志野の海を守る会 「とりもどせ！ぼくたちの海」	千葉県	第18回 (2023年度)
2	特定非営利活動法人 エバーラスティング・ネイチャー	絶滅危惧種であるウミガメ類の海洋ゴミ誤食 調査と普及啓発イベント	神奈川県	第18回 (2023年度)
3	特定非営利活動法人 おおいた環境保全フォーラム	豊かな水環境を目指す 別府湾エコ コーストプロジェクト	大分県	第18回 (2023年度)
4	特定非営利活動法人 エー・ビー・シー野外教育センター	子どもたちのウエス作りが別府市の水環境 を変えていく！	大分県	第18回 (2023年度)
5	特定非営利活動法人 カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク	あいの里でトンボを指標に豊かな水環境を つくろう！	北海道	第17回 (2022年度)
6	認定特定非営利活動法人 改革プロジェクト	子どもの意欲を育む環境教育プログラムの 展開	福岡県	第17回 (2022年度)
7	一般社団法人 ふくおかFUN	「海を元気にする海草」アマモ場再生・造成 プロジェクト	福岡県	第17回 (2022年度)

「TOTO水環境基金」ホームページ <https://jp.toto.com/company/csr/mizukikin/>

ウェブサイトでは、各団体の活動内容について写真を交えて紹介。
活動に携わった方や現地の皆さんの喜びの声も紹介し、
より具体的に活動の目的や意味・成果をお伝えしています。

新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030

新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030

きれいと快適



環境



人とのつながり



「環境・社会的価値」と「経済価値」を同時に実現する新共通価値創造戦略 TOTO WILL2030では、「きれいと快適」「環境」「人とのつながり」を取り組むべき重要課題「マテリアリティ」としてサステナビリティ経営を強化し、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」にも貢献していきます。

<https://jp.toto.com/company/profile/philosophy/managementplan>